



鳥取市教育センターだより

第5号 平成31年3月14日発行

〒680-0053
鳥取市寺町150番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

継往開来（けいおうかいらい）！

所長 東田 重高

本格的な春の訪れを感じる季節となり、本年度も残りわずかとなりました。皆様のお力添えにより、開設12年目の鳥取市教育センターの事業も無事終了しつつあります。子どもたちも教職員も、この1年間の成長を実感し、笑顔で年度の締めくくりができることを願っています。

右の作品は、すなはま通級生が少しずつ自信をつけ、仲間と一緒に活動に参加することで安心できる心の居場所を感じながら、それぞれの花を因州和紙で折った共同作品「十人十色」です。このように、この一年、「すべての子どもが しあわせになるために」を合言葉に、教職員研修、特別支援教育の推進、教育相談、適応指導教室の運営など、さらなる充実を図りながら様々な事業に取り組んできました。特に、中核市元年の今年度は、中核市教職員研修のスタート、「こども発達支援センター(愛称：あいぽっぽ)」



すなはま教室通級生
折り紙共同作品「十人十色」

開設など、教育センターにとって平成最後を締めくくる実り大きな年となりました。

あと2週間余りで新年度のスタートを迎え、5月には、「平成」から「新元号」に改元されます。本年度のまとめと新年度の準備を進めているこの時期は、これまでの取組・実績をしっかりと「引き継ぐ」「受け継ぐ」ことがとても重要となる時期です。タイトルにあります「継往開来（けいおうかいらい）」には、「先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く」という意味が含まれています。

4月には、希望に胸を膨らませた新入生が入学してきます。教職員・児童生徒ともに新たな顔ぶれとなりますが、子どもたちの夢や希望の実現に向けて教育活動に邁進し、学校が子どもたちの笑顔でいっぱいになることを願っています。



鳥取市教育センターは、「継往開来」を意識しながら新年度も学校教育の充実、発展のため躍進できるよう職員一同努めてまいります。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

自己の課題解決に生かす ～第2回講師研修会から～

第2回講師研修会は、6校（小学校4校、中学校1校、義務教育学校1校）に分かれて研修を行いました。1校15名程度の少人数の参加者にする事で、授業者である先輩に直接授業づくりや学級経営について質問したり、研究協議で困っていることなど情報交換したりして、自己の課題解決に生かすことができるようにしました。また、道徳の授業公開をとおして、児童生徒一人ひとりを伸ばす授業づくりや学級づくりを学ぶ研修としました。

【第2回講師研修会の内容】

- 1 授業参観
- 2 校長講話「教師としての姿勢」
- 3 授業者の講話
「授業づくりと学級経営」
- 4 研究協議・情報交換

各学校の校長先生による講話



【各校長先生の講話より】

- ・人を育てることは、自分が育つこと。教えることを通して自分も学んでほしいと思います。
- ・教師としての武器を持つことが大切です。
- ・児童を多面的に見ることができるよう情報を自ら進んで得ることが大切になります。
- ・子どもは「何とかしてやろう」という一生懸命なあなたの姿に学んでいます。

【参加者の感想】

- ・校長先生の講話の「うまくいかないこともあるけれど、それから逃げないこと」という言葉が心に残った。実践の記録、改善という繰り返しの中で自分の武器を磨いていきたい。
- ・他校の先生方と実践や悩みなどを情報交換し、共有することができてとてもよかった。
- ・他校の養護教諭の先生方がされている保健指導での工夫を知ることができる良い機会になった。

授業参観後の研究協議



研究協議では、話を聞くのが苦手な児童生徒への手だてや学級のルールづくりなど、各自の課題を出し合いながら情報交換が行われました。参加者は、日頃悩んでいる授業づくりや学級経営についての具体的な手立てについて先輩から助言を得るとともに、校長先生方からの温かい励ましの言葉に元気とやる気をいただくことができました。教師として大切にしたいことを直接学ぶことができる貴重な研修となりました。6校の校長先生方をはじめ、授業公開してくださった先生方、大変ありがとうございました。

《研修会場校》 ☆ご協力ありがとうございました。

11/22 末恒小 11/26 佐治小 11/27 稲葉山小 11/30 鹿野学園 12/3 賀露小 12/6 西中

1年間の研修を終えて

皆様の御理解と御協力により、中核市として教職員研修の初年度を実施することができました。心より感謝申し上げます。

この1年間で感じたことは、鳥取市の先生方の学ぶ意欲の高さと子どものためによりよい教育を創造したいという情熱です。わたしたちは、この先生方の情熱と子どもたちの未来のために、今年度の課題を改善し次年度の研修をブラッシュアップしていきたいと考えています。また、毎回の研修後に皆様からいただいた振り返りシートの御意見は、研修企画にとって何より有難い資料となりました。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

特別支援教育係

子どもの育ちを見つめ、次年度への丁寧な移行を目指して！

1年間の児童生徒の成長や変容を確認、共有するとともに、次年度の準備を行う時期となりました。幼稚園・保育所等において、就学移行支援の必要性や重要性が周知され、個別の教育支援計画（就学移行期）を活用した就学移行支援会議の開催が増えてきています。また、小学校から中学校においても、個別の教育支援計画を活用した引継ぎを推進しているところです。

移行支援会議において、大切にしたいのは「良さや強み」「成長の過程」「可能性や能力を最大限に伸ばすために必要な指導支援内容と方法」の共有です。一人一人の成長を喜び、子どものありのままの姿を受け止め理解することは、本人の理解者のネットワークを拡げることにつながり、切れ目ない支援を行う基盤となります。

本人はもちろん保護者にとって安心して新年度のスタートを迎え、その後の学校生活が安定するよう、引き継がれた情報を校内で十分に情報共有するとともに、相談が継続できるような信頼関係づくりと関係者とのネットワーク構築を目指していききたいものです。

さらに、就学や進学後には、移行支援会議を行った児童生徒について、その後の学校生活状況や適応状況を確認するフォロー会議を行うことをお勧めします。心配や不安を未然に防止することにつながり、学校への信頼感や安心感を高めることができると期待しています。



教育支援委員会を通して、就学相談・教育相談を振り返る！

平成30年度において、特別審査も含め265件の審査を行いました。

教育支援委員会に申請するまでには、「本人・保護者への情報提供」「特別支援学校や特別支援学級、通常の学級での体験入学」「学びの場についての合意形成」が行われ、本人・保護者との信頼関係のもと、丁寧な就学相談・教育相談が重要となります。

本人・保護者との合意形成のためには、提供される学びの場への安心感や必要感や実感がとても大切になります。学校の組織体制において、取り出し指導を行ったり、特別支援学級の弾力的運用による体験を行ったりして、本人・保護者の理解を深め、肯定的で前向きな気持ちで特別支援学級等への措置変更につながった事例が複数見られました。

また、将来の見通しについて具体的な情報提供を行うことで、本人につけたい力や目指す姿に向けた進路選択を行うことにつながっていきます。

次年度を見据えて、すでに相談は継続しスタートしていることと思います。関係機関と連携し、本人にとっての学びの場の充実を目指したいものです。

「世界自閉症啓発デー」を御存じですか？

国連総会（H19.12.18開催）において、カタル王国王妃の提案により、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。

そして、毎年4月2日から8日までを、発達障がい啓発週間としています。

昨年鳥取市でも「ブルーライトアップイベント」が行われました。

今年のイベント情報に関心を寄せ、それぞれの特徴や特性を理解し、誰もが幸せに暮らすことのできる社会の実現をめざし、考える機会にしてみませんか。